

社会科で地域について学習している3年生。

26日は、多賀大社、糸切餅の多賀やさん、多賀大社周辺の見学をしました。

多賀やさんでは糸切餅の由来や作り方、そしてお店についての話を聞き、知りたいことをお店の方にインタビューすることができました。

実際に糸でお餅を切っておられるところを見させていただき、

「おんなじ大きさやなあ」「本当に糸で切ってはるんやなあ」

など、いろんなつぶやきが聞こえてきました。

できたての糸切餅はもちもちで、本当においしくいただきました。

江戸時代の終わりころから多賀で作り続けられている糸切餅。

その歴史や、作り伝えてこられた思いに触れることができました。



多賀大社では、大きな茅の輪がありました。

健康を祈りながら、みんなで8の字に3周しました。

杓子絵馬もたくさんありました。

元正天皇の病気に際し、多賀大社の神主さんが杓子を献上し、天皇の病気が治った

という言い伝えから「お多賀杓子」は有名になったことや、

蛙の子どもが「お多賀杓子」の形に似ているので、「おたまじゃくし」と言われる

ようになったことを知りました。

多賀大社周辺では、古くからのお店や街並みを見学しました。

落ち着いた多賀の街並みを歩き、多賀の良さを感じることができました。